

各部門活動内容

企画・コーディネート部門 ▶ P12～P13

被災自治体の要望等を把握し、福島大学が有する人的・知的資源とのコーディネートを行います。また、復興支援活動における産学官の連携、国や被災自治体等からの委託事業並びに民間団体から寄附金を受け入れるほか、県内・県外でのシンポジウムの開催、福島未来を担う子ども・若者を支援する団体等を対象に「福島めばえ助成金事業」を行います。

こども支援部門 ▶ P14～P17

被災した子どもや保護者が抱える「困り感」を解消するため、教育相談窓口や情報ステーションを開設し、子どもや保護者の「困り感」に寄り添った課題解決的支援を行います。また、学校環境・家庭環境・地域環境の変化により低下した子どもたちの「生きる力」の向上を目指し、実態に応じた教育支援を行います。さらに、被災による経験知を活用しながらリーダーとして活躍することができる「防災リーダー」や「地域リーダー」の育成を目指し、「リーダー育成プログラム」を実施します。

地域復興支援部門 ▶ P18～P23

避難指示区域自治体の復興計画策定や実現に向けての支援、復興まちづくり事業の推進のための支援を行います。また、有形文化財の保護活動、行政や産業組合などと連携した商工・観光業の復興支援を行います。さらに、震災・原発事故時の避難所・避難住民等のヒアリング、仮設住宅・災害公営住宅におけるコミュニティの構築についての調査研究、国内で大規模災害が発生した際の情報収集と調査研究や支援体制の検討を行います。

農・環境復興支援部門 ▶ P24～P27

農作物の風評被害払拭方策の研究・提案、農業復興に取り組む自治体・住民組織に対する支援研究、営農再開・農地保全・集落再生モデルの策定を行います。また、農作物への放射性物質の移行状況、福島県内の土壌環境・水環境における放射性物質の状況についての調査研究、放射線に関する知識の普及、農作物の放射性物質検査体制・吸収抑制対策の効率化・高度化へ向けた検討を行います。

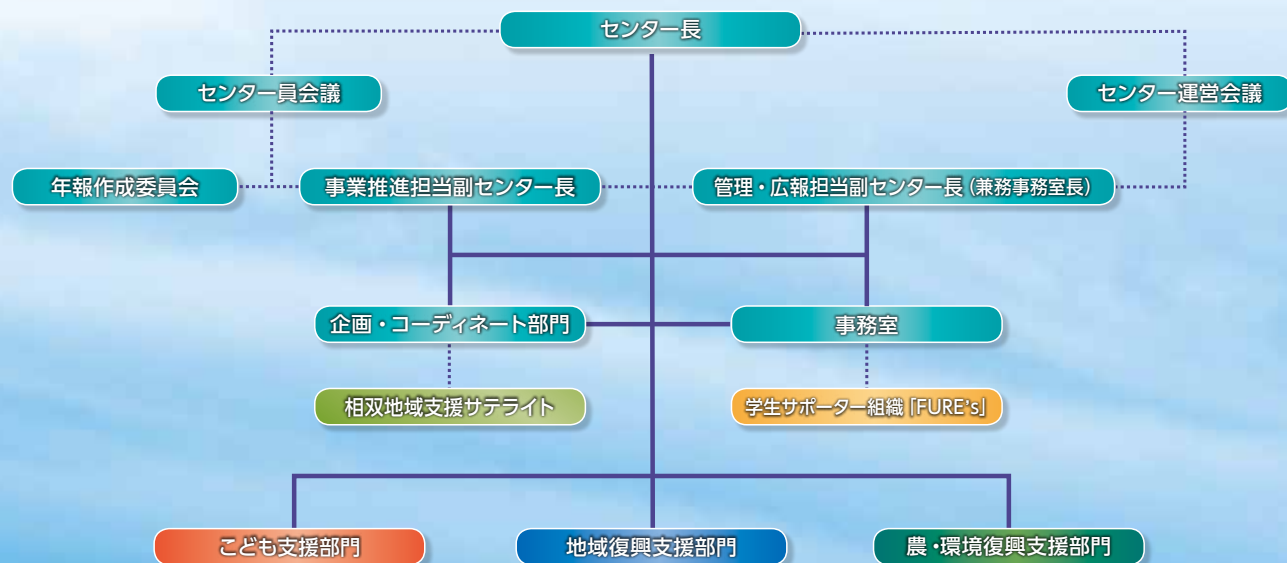
相双地域支援サテライト ▶ P28～P29

相双地域と大学を繋ぐ現地の拠点として活動しています。地域再生を目指し、コミュニティ再生や教育環境の整備など、住民に寄り添ったソフト面の支援を行います。また大学が持つ知見を活用した農業再生支援や、住民と行政・自治体間の連携促進に向けた取り組み等を行います。楡葉町（本所）のほか、川内村、南相馬市に分室があります。

学生サポーター組織「FURE's」

関心のある分野の特任教員の下で、調査等を行いながら、福島県の現状を学び、実践的な支援活動を行うほか、FURE's 独自の取り組みとして事業を企画し実施します。

センター組織図



福島大学 うつくしまふくしま 未来支援センター

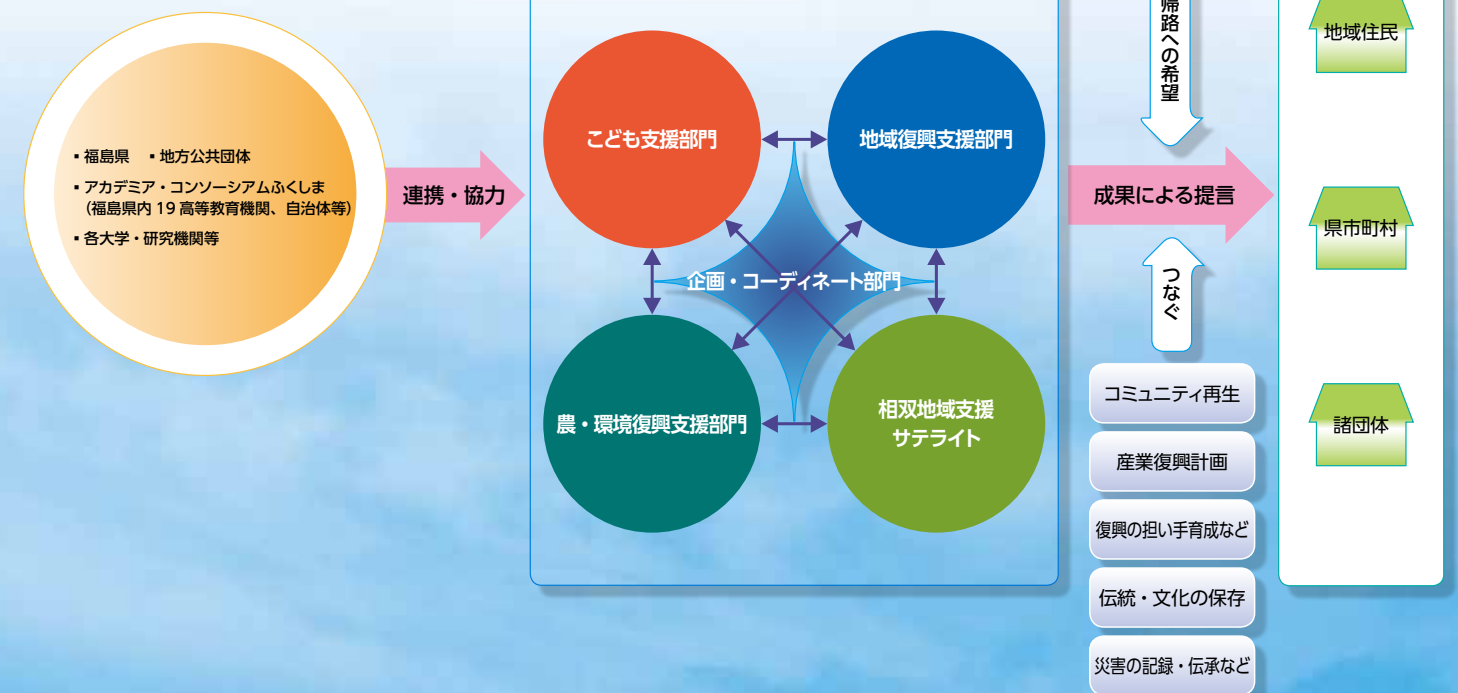
Fukushima Future Center for Regional Revitalization

うつくしまふくしま未来支援センターは、4つの部門と相双地域支援サテライト（楡葉町〔本所〕、川内村、南相馬市）を配置しています。また学生サポーター組織 FURE's も活動に加わり、学術・研究を第一義とする「研究センター」ではなく、地域の復旧・復興に寄り添う「支援センター」として実践的な活動を展開しています。

FURE
うつくしまふくしま未来支援センター

Fukushima Future Center の FU と Regional Revitalization の RE から作られています。「フレ」と呼び、「フレ！フレ！Fukushima」という意味が込められています。福島県は多重災害により様々な問題を抱えていることからあえてシンプルなデザインにしました。F は緑色とし、県土の 70% を占める「森林」を表しています。U は茶色とし、福島県の「豊かな大地」を表しています。R は水色とし、福島県の「ほんとの空」、そして「水産資源が豊富な海」を表しています。E はピンク色とし、福島県民、特に子供たちの「未来、夢」を表しています。

センター概略（平成 29 年度）



うつくしまふくしま未来支援センターの 1年のうぶぎ

2017年度のうつくしまふくしま未来支援センターのうぶぎをダイジェストでお伝えします。

2017

3月1日／FURE's「I♥(LOVE)会津」制作を発表



4月12日／中井学長から辞令を受け取る
めばえちゃん



5月12日／相双地域支援サテライト
南相馬分室 開所式



11月12日／熊本大学大学院生による被災地視察受け入れ



11月17日／相双地域支援サテライト活動報告会



12月21日／JAエコ定期貯金「福・スマイル」にかかる
第13回寄附金贈呈式



3月

○学生サポーター組織「FURE's」 観光パンフレット「I♥(LOVE)会津」作成を発表(1日)
○シンポジウム「ほんとの空が戻る日まで ―復興を進める福島を経験を共有し将来につなげる―」開催(5日)

○科研費基盤Sシンポジウム「 Fukushimaの復興の歩みを学術的視点から海外に発信する」開催(12日)

4月

○「福島県アーカイブ拠点施設資料収集業務」活動開始(3日)

○「めばえちゃん」が大学公式マスコットキャラクターに任命される(12日)

○「ふるさと」を想うまもる つなぐ ―地域の大学と町役場の試み―富岡町と共同刊行を発表(12日)

○JAエコ定期貯金「福・スマイル」にかかる第12回寄附金贈呈式(21日)

○「全国菜の花サミット in 南相馬2017」にて被災農地再生の取り組み事例を紹介(22日)

5月

○防災教育教材「さすけなぶるLite」開発を発表(10日)

○相双地域支援サテライト 南相馬分室 開所式(12日)

9月

○子ども支援部門シンポジウム「『子どもの今をつなぐ』Part2」開催(6日)

○「双葉郡第2回住民実態調査」中間報告を発表(6日)

○全国大学生生活協同組合連合会視察研修受け入れ(11日)

○シンポジウム「ほんとの空が戻る日まで―東日本大震災から7年目を迎えた浜通り地方の今後を考える―」開催(27日)

10月

○スウェーデン国会議員3名の被災地視察受け入れ(5日)

○「アートで伝える 考える福島」の今、未来 In Fukushima x FUREアーカイブ事業成果展「第1期 開催(12日) 29日)

○福島特例通訳案内士技術向上研修 開催(14日以降継続実施「全6回」)

11月

○かわうち100%フェア(川内村産のお米の大学生協食堂での提供・農産物販売)に協力(6日) 9日)

○熊本大学大学院生による被災地視察受け入れ(12日)

○「アートで伝える 考える福島」の今、未来 In Fukushima x FUREアーカイブ事業成果展「第2期 開催(15日) 28日)

○「相双地域支援サテライト活動報告会」を富岡町で開催(17日)

○特別講演会「食と農でふたばの明日を拓く」を楡葉町で開催(20日)

○福島めばえ助成金「前期助成事業決定通知交付式」開催(24日)

○「どろんこプロジェクト伊達市小国地区子ども田植え体験」協力(28日)

6月

○楡葉町立楡葉北小学校の解体に伴う震災アーカイブ資料の収集(5日) 9日)

7月

○ラ・トロープ大学(オーストラリア)視察研修受け入れ(11日)

○銘傳大学(台湾)視察研修受け入れ(12日)

○第1回防災リーダー育成プログラム開催(14日以降継続実施)

○第7回福島県内大学等復興支援センター連絡会開催(21日)

8月

○「土壌中放射性セシウム濃度(Bq/kg)の計測手法の技術評価と手引書作成について」を発表(2日) オープンキャンパスにて「さすけなぶる」体験講義を開催(6日)

○「科研費基盤S」シンポジウム「3.11東日本大震災・原子力災害からの教訓」開催(27日)

12月

○「アートで伝える 考える福島」の今、未来 In Fukushima x FUREアーカイブ事業成果展「第3期 開催(9日) 21日)

○「ふくしま・アーカイブフォーラム2017」にて震災アーカイブ資料を展示(10日)

○JAエコ定期貯金「福・スマイル」にかかる第13回寄附金贈呈式(21日)

1月

○福島県立図書館・美術館でのアーカイブ資料所有調査(18日)

2月

○「第2回双葉郡住民実態調査」調査結果を発表(15日)

○平成31〜32年度FUREセンター長について、初澤敏生現センター長が再任することを発表(21日)

○シンポジウム「ほんとの空が戻る日まで―震災の記録と教訓を残し、未来に活かす」開催(24日)

3月

○第8回福島県内大学等復興支援センター連絡会開催(13日)

8月2日／「土壌中放射性セシウム濃度(Bq/kg)の計測手法の技術評価と手引書作成について」を発表



8月6日／オープンキャンパスにて「さすけなぶる」体験講義開催



9月6日／子ども支援部門シンポジウム「『子どもの今をつなぐ』Part2」



2月24日／仙台シンポジウム



3月11日／福島特例通訳案内士技術向上研修



3月13日／第8回福島県内大学等復興支援センター連絡会

